

川上ダム通信 2010 12月号



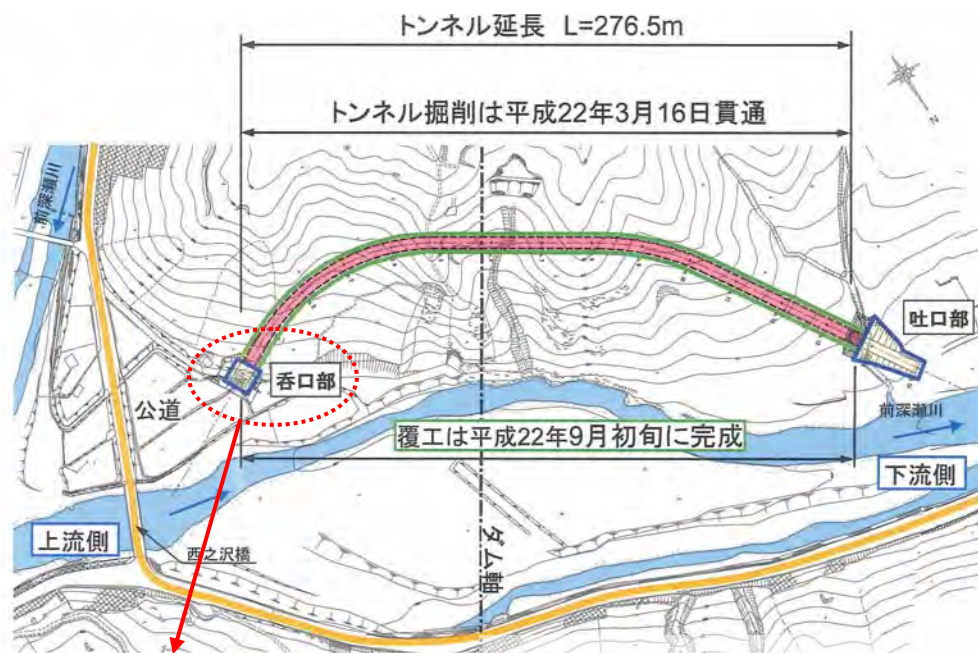
独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

仮排水路トンネル完成間近

平素から川上ダム建設事業へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

仮排水路トンネル工事のトンネルは今年の3月16日に貫通しました。引き続き行われたトンネル内壁をコンクリートで覆う作業は9月初旬に終了、そして、呑口部（仮排水路トンネルの入口）をコンクリートと鉄筋で作る作業も終了し、**仮排水路トンネルは概成**しました。残るは、工事中に出た濁った水を川の水と同じ程度にまできれいに処理する設備や、洪水時に工事区域を浸水から守った大型土のうの撤去があります。皆様のお手元にこのダム通信が届く頃には、この工事に係る車両の**県道松阪青山線の通行は終了している予定です**。これまでの皆様のご理解・ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

【工事課長 山田雅勝】



仮排水路トンネル呑口部の周辺状況



仮排水路トンネル呑口部（拡大）

工事の現況

付替県道青美線トンネル工事の進捗状況について

付替県道青美線トンネル工事では、トンネル上流側の山を削る作業を行っております。写真中央の斜面の桃色線の範囲は、コンクリートの枠を造成し、その格子点に鉄筋棒を差し込むことで斜面を安全にしています。この作業の後、写真の青点線の範囲の山を削り、工事用車両がトンネルの坑口に接近できるようにします。これにより、トンネル区間の作業が始まります。トンネル掘削は約5ヶ月間かかる予定です。現在、資材運搬車等が、県道松阪青山線及び名張青山線を通行していますが、引き続き一般車両優先で工事を進めてまいりますので、工事へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【工事課長 山田雅勝】



川上ダム付替県道青美線トンネル工事の状況

桐ヶ丘フェスタ 2010

11月13日(土)、桐ヶ丘三丁目のアミティの近くで「桐ヶ丘フェスタ2010」が開催されました。川上ダム建設所もブースを出展させていただきました。

当日は、青山中学校吹奏楽部の演奏や桐ヶ丘音頭等の催し物が行われ、フリーマーケット等もあり大変賑わいました。

私達のブースでは、現在完成間近となっております仮排水路トンネルの工事で掘削した岩石の小片を展示、配布しました。また、トンネル工事の過程で、岩盤から棒状に掘り出した岩片で作った「^{せっきん}石琴」を展示しました。

山の深部から掘り出される石はなかなか手に入るものではないということで、幅広い世代の方々に記念品として持ち帰っていただきました。また、「石琴」もとても珍しいもので、子供達に弾いてもらい、大変喜んでいただきました。現在、この「石琴」は川上ダム建設所に展示してありますので、興味のある方は是非遊びに来ていただきたいと思います。

【第二用地課 松高遵】



石琴で遊ぶ子どもたち



展示をご覧になる地元のみなさま

第11回 植物図鑑シリーズ 地元で見られる植物

今回は、アカマツについて紹介します。

アカマツは、秋の名物「松茸」に欠かせないものであることは有名ですが、伊賀地域ではごく普通に見られる種であり、工事などで地肌が露出した場所にいち早く生えることから、主に土壤に栄養の少ない場所で多く見られます。

古来より、アカマツの根元では下草が育ちにくいことが知られています。これは、アカマツが自ら生き延びるため、他の植物を寄せ付けない物質を放出しているからです。このように、植物の放出する天然の化学物質が、他の生物に何らかのプラス作用もしくはマイナス作用を及ぼすことをアレロパシー(多感作用)といいます。

これらの性質を生かし、特に山の尾根部のような土壤に栄養が堆積しない辺鄙(へんぴ)な場所では、昔は土地の境界の目印としてアカマツを植えていたとも言われています。

昔の方から学ぶべきことは多いですね。

【環境課 水野正明】



アカマツの群落



工事跡地に自生したアカマツ

第6回 伊賀市周辺の水辺の土木

水害防備林

古来より人々は竹木を、柱・梁・竹細工などの素材として利用してきました。また、竹木の林は、薪や山菜採取のための「里山林」、強風から家屋や農作物を守る「防風林」（居久根（いぐね／仙台）、垣入（かいによ／砺波）、築地松（ついじまつ／出雲））、家屋を雪崩から守る「雪崩防止林」（留山・留木（とめやま・とめぎ））、そして水害対策としての「水害防備林」（川除け（かわよけ、かよけ））など、生産や防災としての機能も果たしてきました。このうち、川原や堤防に竹を植えて堤防を護る水害防備林は国内各所で見られる水防対策です。

木津川沿川においても、水害防備林はあちらこちらで見かけることができます。京都府の木津川市には藩政時代に整備された「御立藪」、「御藪」と呼ばれる大規模な竹藪（現在では保安林に指定）が現在でも堤防を護っています。

伊賀地方においても「竹林八町藪」「永富藪」などと呼ばれる水害防止のための竹藪があったという記録が残されています。また、藤堂藩では防災と経済の両面から竹材を重視して私有共有にかかわらず勝手な竹の伐採を禁じ、「藪回り無足人」を置いて厳しく取り締まっていたほどです。

このように歴史的に利活用されてきた竹藪も、戦後になると強度の高い近代工法による堤防整備が主流となり、また食料増産を目的とした田畑利用のために伐採が行われ大規模な竹林を見かけることは少なくなりました。しかし、木津川の下神戸や滝川の三本木橋付近などの川沿いにはこうした竹藪が残っていて、今も水害防備の役割を担い続けています。



木津川下神戸橋下流



滝川三本木橋

【調査設計課 金山明広】

information about our office



こちらは仮排水路トンネル工事から得られた石柱状の岩片を音階が取れるように加工したものです。きれいな音が2オクターブ分揃っています。こちらの石琴は、本来廃棄物になる物を再利用した物です。是非、川上ダム事務所まで音を奏でにきてください。

編集後記

朝晩の冷え込みも一段と厳しくなり冬に移り変わったように感じます。また立冬も過ぎ、暦の上でも冬に入りました。今年は、夏が長期に及んだため、秋の期間がとても短かったように感じます。食欲の秋は過ぎてしまいましたが、これからはお鍋がおいしくなる季節だと思えます。鍋の具材と味の組み合わせは、数え切れないくらいあると思えます。今年の冬はオリジナルの鍋に挑戦されてみてはいかがでしょうか？

【広報誌発行事務局】

編集長 及川 拓治（建設所長）
デスク 吉岡 直也（総務課長）
// 柳生 光彦（工務課長）
記者 堀 雅智（総務課）
加藤 晶久（第一用地課）
松高 遵（第二用地課）
森岡 浩然（調査設計課）



ISO14001: 2004
JQA-EM5769

☆☆☆皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
ハガキやメール等でどしどしお寄せください。☆☆☆
◇川上ダム建設所は ISO14001 を取得し、環境保全を推進しています。◇